

訪問先④ 千葉県 S市

これは、15号の図ですが、
19号と21号による大雨の重ね被災
があったことも付け加えます。

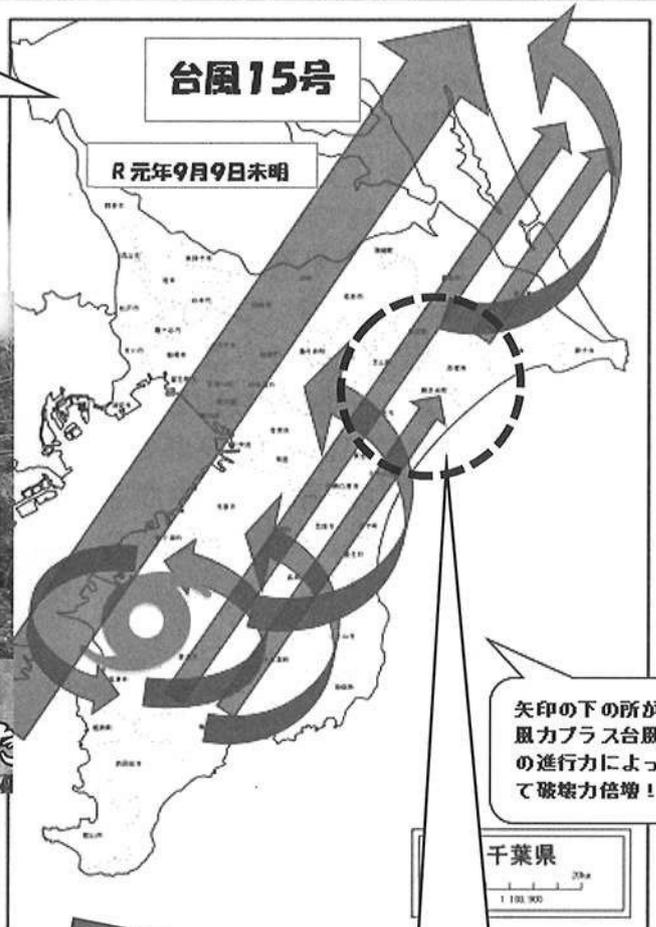
位置的には住宅地であり、その方々の家屋が
強風の直撃を受け、隣人の家から飛来物が出た
という話もある。



人の住んでいない隣家から
強風にあおられた瓦が飛んできた

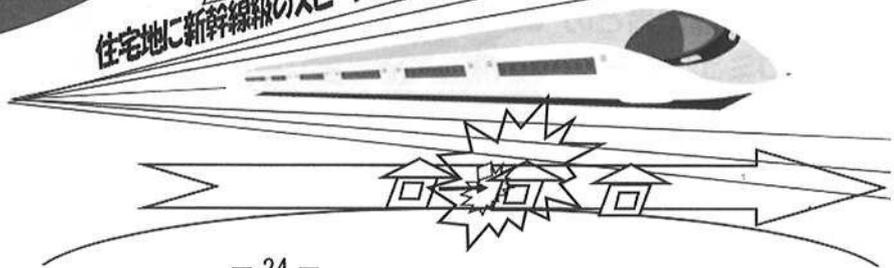


k さんの住居と店舗



S市

210km/h!
住宅地に新幹線級のスピードの突風が直撃したら...隣家から飛来物が...



S市 K氏の店舗

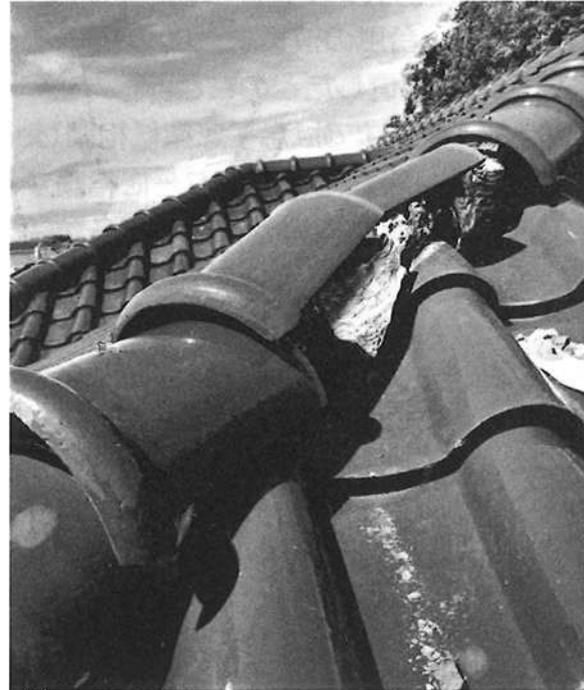
<隣家から瓦が飛んできて怖い。コミュニケーションに困っている！>

発生時

令和元年9/9(月) 午前3時(台風15号)
そのとき、千葉聴覚障害者センターへは…

- 本人や行政からの連絡なし
- 本人や行政からの相談なし
- 手話通訳派遣依頼なし

※当センターからのアンケート
調査に気づき、こちらに連絡



現場状況

(本人の話)

9/9 (月)

AM 3:00

睡眠中、家の揺れに気づいた。

AM 5:00

強烈な突風がきて、2階のベランダを覗いたら
いろいろ散乱して荒れている。

隣の屋根瓦が、何枚も自宅の方に飛んできて、その一部が自宅の壁面
にあたり損傷した。

強風の直撃を受け、本人所有の車庫のシャッターが丸ごと吹き飛ばさ
れてしまった。



SOS 相談

- ◆元会員 ご本人からの連絡なし。
- ◆当センターから以前届いていたアンケート調査（台風の被災調査）があることを思い出し、当センターに返信したとのこと。
- ◆今までは息子家族に相談し、助けてもらったが、今回は県センターに相談することにした。

（千葉聴覚障害者センターから訪問）

- ① 令和2年 9/7（月）
- ② 令和2年 9/30（水）
- ③ 令和2年 10/9（金）



SOS の内容や背景

- ・ 罹災証明書の意味や、その手続きについて情報がなく今まで知らなかったと。今回のセンター相談員の訪問調査で、初めて知った。
- ・ 本人から、罹災証明の手続きに役所に行きたいので、是非とも当センター相談員の同行をお願いしたいと強く希望。
- ・ 今回の台風で車庫のシャッターが丸ごと飛ばされたので、次の台風では、車庫自体が飛んで、周辺の隣家や車に被害が出て、高額の弁償を要求されることを考えると不安にさいなまれているという。
- ・ 本人は、脊柱管狭窄症で長時間立つことができない。妻も同じ病状にあり、重症である。



国道沿いに所有していた車庫も
他から飛んできた看板で破損していた

原因

- 災害に関する情報が皆無の状態にあり、今回のアンケート調査で「罹災証明書」の用語を知り、当センターの相談員訪問時にその詳細な説明を受けて、初めて知ることになった。
- 行政の申込み受付期限が目前の時期であったため、すぐに役所に相談員と同行し申込み手続きを済ませ、所定の証明書を手に入れた。
- 隣家の屋根瓦などが自宅の壁面にぶつかり一部損傷を受けたため、苦情を伝えたかったが、自分が聞こえないためコミュニケーションの問題もあり、躊躇したまま今日に至ったとの事。
- しかし、台風被害による影響の不安は尽きないことから、当センターに相談するに至った。
- 通院などで、手話通訳の派遣を依頼しているが、隣家との話し合いなどの時にも通訳派遣の依頼ができるとは知らなかったし、思いつかなかった。
- 本人は脊柱管狭窄症のため通院を続けており、体調が思わしくない上に、妻も腰痛を患い、体調不良に悩まされている状態にあるため、再び台風が来たときの起こりうる様々なことへの精神的不安が強くなっている。
- 前述のように腰痛が続くので、外出することも極端に減り、趣味のゴルフにも参加できず、ろうの仲間と手話コミュニケーションできず、疎遠になっていることが、非常に寂しいと訴えている。

対策

- 家屋や車庫などの修繕を望むのであれば、業者との打ち合わせなど支援をしていく。
- 瓦の件で、隣人との話し合いにつなぐよう支援していく。
- らいおん千葉（地域活動支援センター）の活動や高齢部の行事など情報提供を行ったり、ろうコミュニティの交流の場につなげるようにしていく。

課題

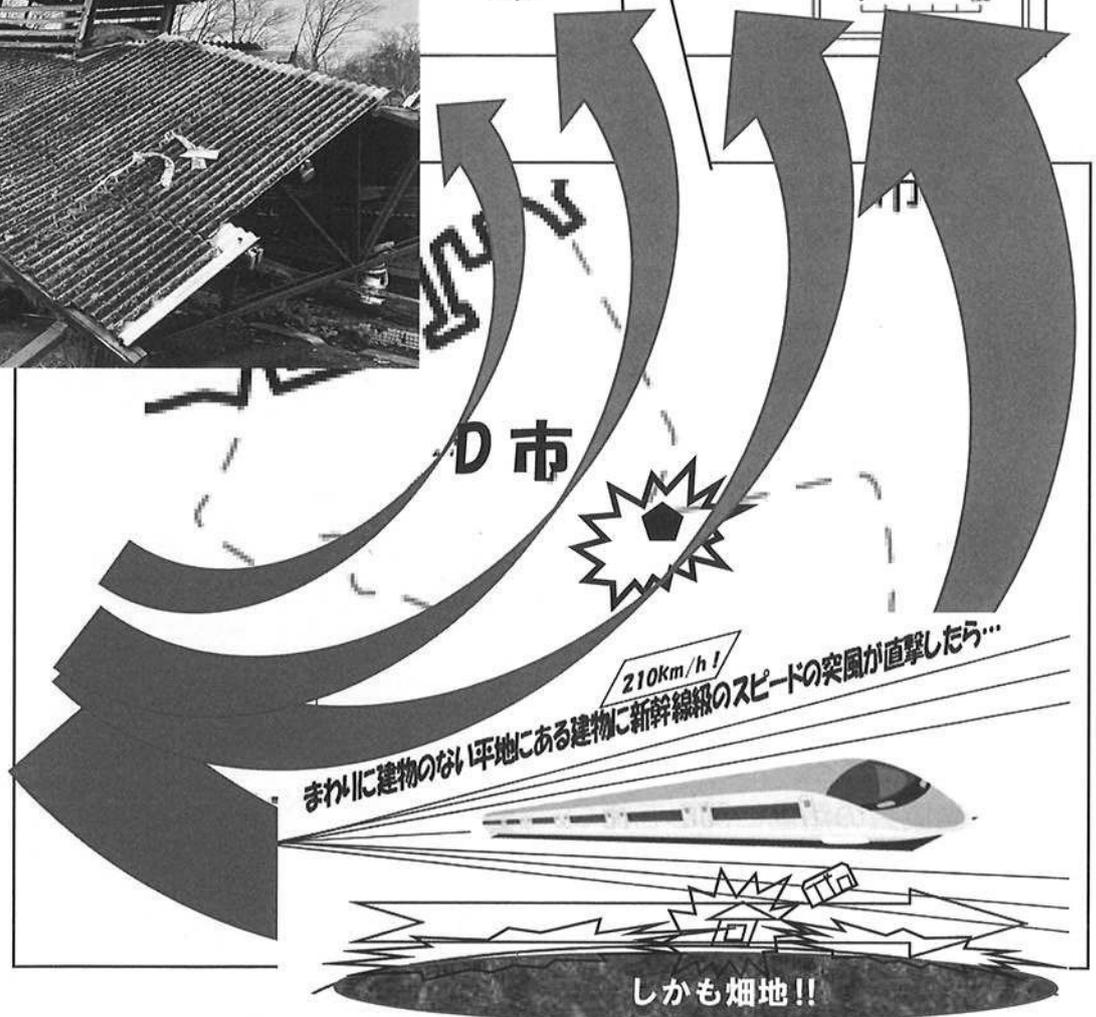
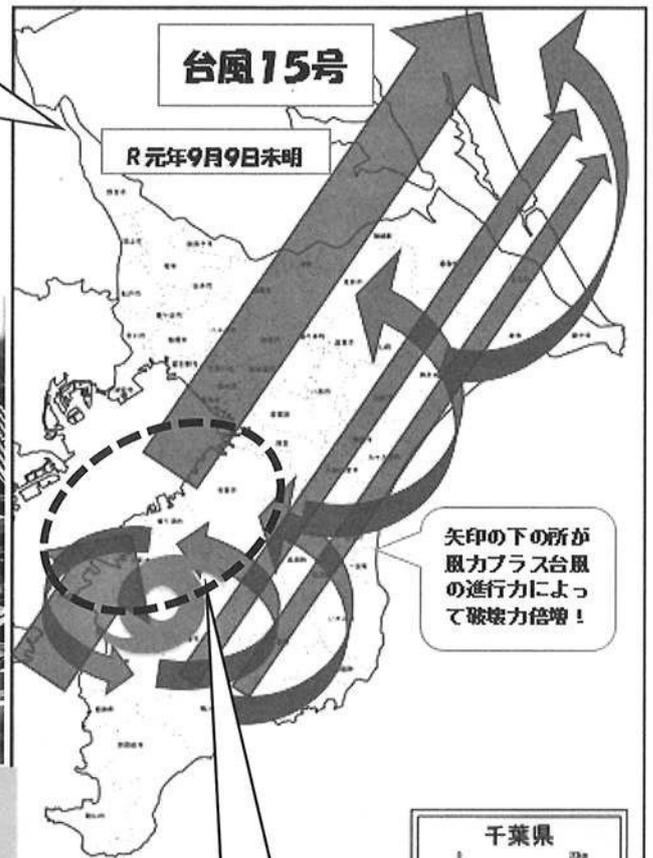
- 手話通訳派遣を活用して、地域での交流に積極的に参加できるように促していく必要がある。
- 当協会の活動に関心を持つことができるよう、非会員の方でも情報提供ができるような仕組みを考える必要があると思われる。



訪問先⑤ 千葉県 D市

これは、15号の図ですが、
19号と21号による大雨の重ね被災
があったことも付け加えます。

農家ということもあり、位置的には周りには自宅
と農作業所が離れている位置付けで、被災者の家
屋や農業関係施設が強風の直撃を受けたかたち
となる。



D市 T氏の農小屋

<農小屋が飛ばされ、農機具などが散乱。急いでほしい！>

発生時

令和元年9/9（月）午前3時（台風15号）
そのとき、千葉聴覚障害者センターへは…

- 本人や行政からの連絡あり
（協会役員やっている）
- 本人や行政からの相談なし
- 手話通訳派遣あり
（設置通訳者有り）



現場状況

（本人の話）

9/9（月）

AM 3:00

睡眠中、家の揺れに気づき、地震かと思った。

天井から雨水がしたたり落ちてきた。

慌てて外を見たら物凄い突風が…

AM 5:00

家の周りの農地がなぎ倒され、作業用の小屋が屋根ごとつぶれていた。

ビニールハウスは30m先まで飛ばされ、元の場所には跡形もなかった。

自分の家は屋根瓦が破損し雨漏りは止まらず…



この写真の指のさす方向
は前ページの倒壊した
農小屋をさしている。
内閣府政務官の深刻そう
な表情がうかがえる

※両者の奥にはD市の職員がいる



SOS 相談 (千葉聴覚障害者センターから訪問)

①令和元年 9/27 (金)

②令和2年 3/10 (火)

SOS の内容や背景

- 農作業に必要な小屋数軒が飛ばされたり、潰れてしまったり散々たる状態。潰れたものを退かして農機を取り出すのは難しい。家族では手に負えない。なんとかしてほしい。
- 農作業に必要な機材なので、建物の撤去作業をしなくてはならないが、素人では危険だし、金もかかる。



- 罹災証明書は家屋のみ対象となると聞かすが、農小屋の場合はダメなのか？
→別途に「農業罹災証明書」という制度があるとの情報が得られた。
「確認してみる」とは、現場調査に来ていたD市職員からの弁。
- 自分の家の屋根にブルーシートをかけて応急処置は済ませたが…、業者による修繕は順番待ちの状態。



これは2019年9月27日時点の写真

原因

- ・ 台風直後に停電に見舞われ、長期化（1ヶ月もの）を余儀なくされた。
- ・ 連日の高温多湿の中で、エアコンが使用できないため、毎晩眠れない状態が続き苦しい。
- ・ その上に農機が無い中で、業務活動がなかなかできない状態が続く。
- ・ とりあえず、自分でできるところから被災後のがれきの撤去等後始末を始めたが、つぶれた大きな屋根は重くて手に負えず、途方に暮れている。
- ・ 罹災証明書は「農業用」の制度もあると聞かされて早速手続きしたが、解体・撤去などの業者がなかなか来なくて心配している。
- ・ 本人の膝の状態も思わしくなく、農機が無い中で手作業での農業はきつい。

対策

- ・ 農業用の罹災証明書の手続きは済ませたかどうか…を再確認する。
- ・ 農小屋の解体や撤去の作業を急ぐよう、行政の担当課に促していく。



課題

- ・ 令和3年2月14日時点で、雨漏りの被害がひどかったという箇所について、屋根修繕工事が終わったとのこと。一方、全壊した農小屋のは、ようやく解体工事が終わったばかりとの報告あり。解体が完了するのに3日もかかったとのこと。
- ・ 台風通過後の被害状況の把握（市在住の聴覚障害者）について、市設置手話通訳者と当センターとの連携や情報共有の構築が課題として残された。

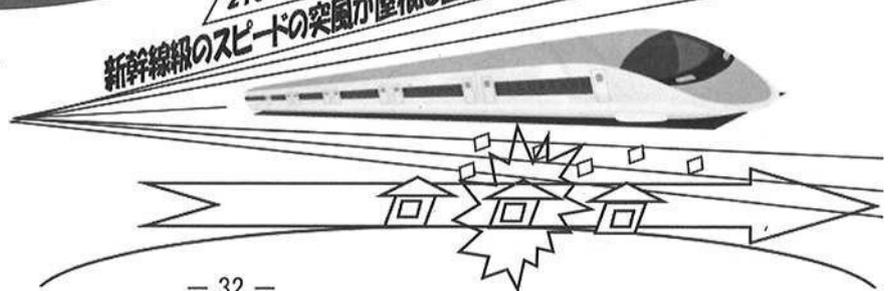
のところから約30m飛ばされたものです！



訪問先⑥ 千葉県 Y市

これは、15号の図ですが、
19号と21号による大雨の重ね被災
があったことも付け加えます。

住宅地で、とくに屋根が強風の直撃を受け、瓦が飛び、
家屋内に水がしたたり落ちる程の状況となる。



Y市 K氏宅

<雨もいがする。屋根がやられた。早く何とかしてほしい>

発生時

令和元年 9/9 (月) 午前 3 時 (台風 15 号)

- ・連絡なし
- ・相談なし
- ・手話通訳派遣依頼なし

※ただし、本人は介護保険給付を受けており、当時のケアマネジャーが県登録手話通訳有資格者でそれなりの対応はあった

現場状況 (本人の話)

9/9 (月)

AM 5:00 家の屋根に穴が開き、雨水が室内に流れ落ちており
畳が水浸し状態になっている。
屋根瓦が何枚も吹き飛んでしまったが、
屋根の修理は未着手のまま…

10/11

午後～夜

(この状態で次の台風 19 号が来れば、更に家の損壊が激しくなり
命の危険が予想されるため、本人に避難所への移動を進めるが、
拒否され自宅を動かそうとしない。

本人の担当ケアマネから当センターに支援の要請が入り、

10/11 の金曜日夜に当センターのろう相談員等が現地に急行。

ろう相談員が本人に身の危険について説明し、

避難行動の必要性を説得し、ともに避難所へ移動。)

(令和元年 10 月 11 日・金の放送から)

明日 10 月 12 日 (土) 台風 19 号が
Y 市へ…

警報レベルも「5」相当見込み！
その地域の方、避難所へ向かうように！

台風 19 号の前日夕方の放
送から当センターろう相談
員等が現地へ急行し、本人
を説得し避難所へ移動させ
た

SOS 相談 (千葉聴覚障害者センターから訪問)

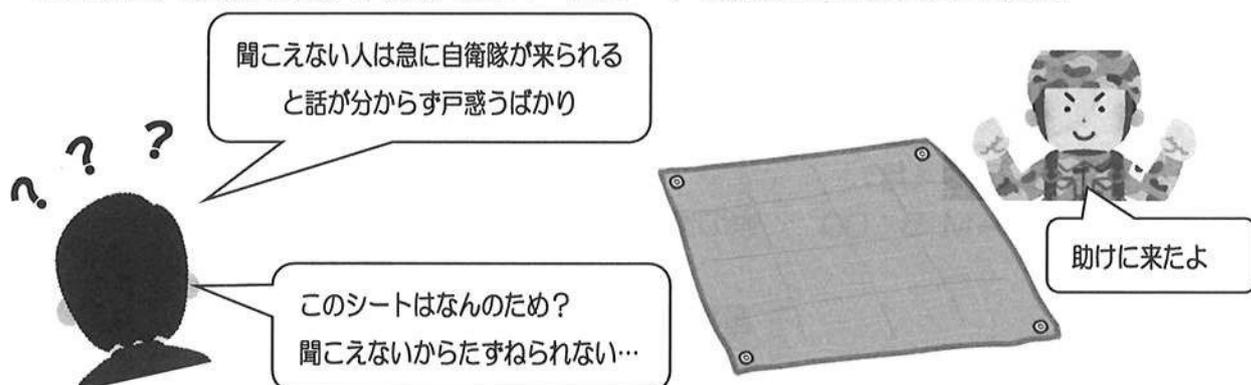
① 令和元年 9/27 (金)

② 令和元年 10/11 (金)

※この日は台風 19 号の来襲前日で本人に避難所に移動するよう説得し、本人の了承を得て移動。

SOS の内容や背景

- ・台風 15 号では屋根が激しく損壊し、雨もりに苛まれて途方に暮れているときに、自衛隊らしき人たちが突然訪れてきて、屋根に上り、ビニールシートを被せて応急処置をしている状況を本人は目にするが、意味が解らず、誰からもその状況説明もないので、ただただ戸惑っていた。当センターのろう相談員が本人宅に調査に入った時に、説明を受けて初めてビニールシートの意味を知ることとなる。

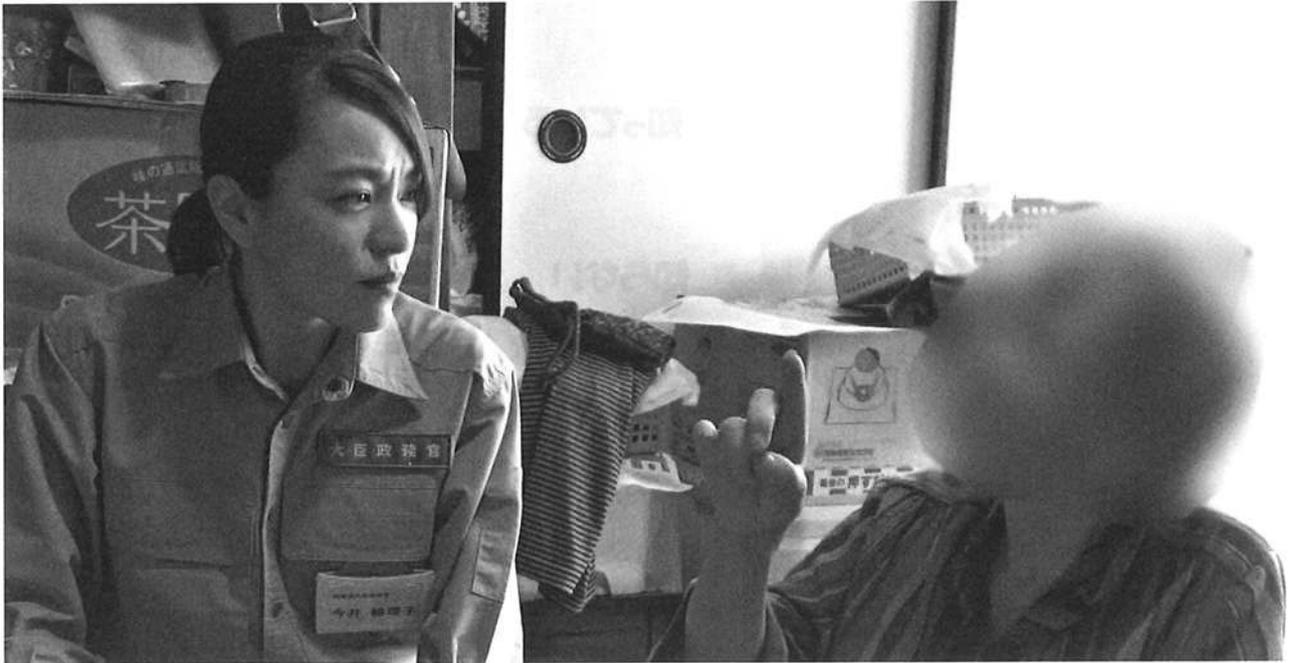


- ・台風 19 号襲来直前に避難所に移動してほしいとケアマネジャー (手話通訳付き) が何度も本人に勧めたが、本人の強い意志で避難を拒否し続けていた。
- ・80 歳を越えており、このままでは危ないと判断したケアマネジャーは当センターに連絡を入れ、その日のうち、当センターのろう相談員数名が現場に急行。
- ・最高レベルの警報となる可能性が強いため、説得し、避難所へ移動を…。

台風15号で傷んだ家屋に
再度の台風が追い打ち

原因

- ・ 本人は80歳を越えたらう女性で一人暮らし。
- ・ 老朽化した家屋（一軒家）に住んでおり、災害発生時にかなりの危険性がある。駅から10キロほど離れたところの山々の中に家…という状況。
- ・ 家族は子供一人いるが遠方におり、事情があり頻繁には会えない。
- ・ 担当ケアマネとコミュニケーションがうまくいっていない。
- ・ そのような中で、全く何も情報がないままで自衛隊らしき人々が突然訪れてきて、いきなり屋根の上にブルーシートを被せる様子を目のあたりにして驚いたとのこと。



対策

- ・ 台風15号での被災状況が確認できたので、台風19号のときは避難所へ移動するよう説得を優先した。
- ・ 手話コミュニティの場の確保や介護サービスなどの支援が臨機応変に対処しやすいように、都会への移転を視野に入れて検討を始めた。

課題

- ・ 避難所に移動したものの、一日居ただけで、すぐに家に戻ってしまった。避難所が体育館であったため、夜中に子供などの移動による床の振動で一日中眠れなくて大きなストレスとなり、かなりつらい状態であったという。
- ・ ろう者は聞こえないがゆえに体に伝わる振動は人一倍に敏感な面があり、一般にはあまり知らされていないろう者の特性のひとつである。
- ・ 当事者は施設に入ることを強く拒み、家での一人暮らしを強く望んでいるため、ピアでの訪問ヘルパーによる支援が可能な県都周辺に引っ越させるなど支援をしていく。